

令和 4 年 度

事業計画書



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

福岡県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

は じ め に

令和3年11月、日本赤十字社名誉副総裁である寛仁親王妃信子殿下のご臨席を賜り、福岡県日赤紺綬会第61回総会をはじめて飯塚市で開催し、立派な式典にすることができました。澁田繁晴会長をはじめ、嘉飯日赤紺綬会の皆様のご尽力に敬意を表し、飯塚市、嘉麻市、桂川町のご支援に、厚く感謝いたします。この総会により、赤十字活動は更に大きな推進力を得たように感じます。

令和4年度におきましては、福岡県日赤紺綬会第62回総会を福岡市で開催する計画としております。また、大正11年に滋賀県の守山小学校で始まった青少年赤十字活動が100周年を迎えます。記念式典に加え、留学生との交流会や避難所体験学習会など新しい取組にもチャレンジし、青少年に『気づき・考え・実行する』態度が身に付くよう活動を推進いたします。

久留米赤十字会館は、これまで災害時の医療救護活動の拠点として支援物資の備蓄倉庫として使用していましたが、平常時での利用促進を図るため救急法等の講習会場やボランティア活動の拠点としても活用する他、九州八県支部合同の災害救護訓練の場としても使用します。

まだ、新型コロナウイルス感染症に対する不安もありますが、感染症対策には万全を期し、Webを利用しながら、今年度も赤十字事業を着実に続けてまいります。

県内の赤十字病院、血液センター、特別養護老人ホームとも連携し、『人間のいのちと健康、尊厳を守る』という赤十字の使命に尽力します。皆様方には引き続き温かいご支援を賜りますことをお願いいたします。

目 次

1 国内災害救護	3
2 救急法等の講習	6
3 赤十字奉仕団	10
4 青少年赤十字	12
5 国際活動	16
6 活動資金の募集	17
7 広 報	20
8 久留米赤十字会館	22
9 医療事業	24
10 血液事業	28
11 社会福祉事業	30
12 看護師等の養成	33
支部事務局諸行事	34
支部役員名簿	36
支部管内施設	37

1 国内災害救護

近年、九州地方では毎年のように大雨に見舞われ、家屋の流出や倒壊などの住家被害のみならず、人的被害も多数発生しております。

当県支部は、九州各県支部と日本赤十字社本社との連絡調整を行う代表支部として、県内だけではなく九州各地で発生する災害に迅速に対応できるよう平時から訓練を行い、災害の発生に備えています。

令和4年度は、当県支部が九州八県支部合同災害救護訓練の開催担当県となることから、災害時に全国から集結する救護班要員の集結拠点として位置付けている久留米赤十字会館を活用した訓練とすることで、九州各県支部のさらなる連携強化を行うとともに、ロジスティクス中継基地として有効性の検証・評価を行います。

また、災害時の被害を軽減させるため、令和3年度に運用を開始したオンラインによる「赤十字防災セミナー」も併せ、地域住民がコミュニティにおける「自助」「共助」の力を高めるための「赤十字防災セミナー」をさらに展開します。

(1) 救護員の訓練

日本赤十字社は、災害救助法や災害対策基本法などで国や地方公共団体の救護活動に協力することが義務付けられており、日頃から救護活動に従事させるために必要な救護員を確保し、その養成訓練を行っています。

九州各県支部持ち回り開催の災害救護訓練も本年で4巡目となります。令和4年度は、近年頻発している豪雨災害を想定した訓練を久留米赤十字会館で実施します。

また、新型コロナウイルス感染症対策として令和3年度に導入したオンデマンド動画視聴による訓練教材を引き続き活用し、万が一感染が拡大した場合でも訓練を中止することなく継続して救護員育成を行います。

ア. 支部主催の救護訓練

訓 練 名	時 期	場 所
救護員育成規程共通課程訓練	5 月	各施設において動画視聴
救護医師基礎・応用訓練	6 月	久留米赤十字会館
救護看護師基礎・応用訓練		
救護主事基礎訓練	7 月	久留米赤十字会館
救護主事応用訓練	9 月	久留米赤十字会館
日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練	10 月	福岡県支部・久留米赤十字会館
支部職員救護体制要綱に基づく本部設置運営訓練	随時	福岡県支部

イ. 県・政令市等主催の防災訓練

訓 練 名	時 期	場 所
福岡県総合防災訓練	6 月	糟屋郡（予定）
福岡県石油コンビナート等図上訓練	8 月	未定
福岡市市民総合防災訓練	9 月	福岡市
福岡空港航空機事故対処訓練	11 月	福岡市
福岡県国民保護図上訓練	1 月	福岡県庁

【訓練の様子】



オンラインを活用した訓練



基礎行動訓練



Web 会議システムを用いた
九州八県支部合同災害救護訓練



福岡市市民総合防災訓練 ※平成 30 年度実施時

(2) 赤十字防災セミナーの実施

日本赤十字社防災教育事業として、赤十字防災セミナーは地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高めることを目的として実施しています。

当県支部が実施している赤十字防災セミナーは、まだ認知度が低いため、令和3年度に実施した各市町村発行の広報誌への掲載を引き続き実施するとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から運用を開始しているオンラインの「防災セミナー」を継続して実施します。

【実施計画】

対 象	回 数	講 師
地域住民及び自治体等	10 回 (オンライン含む)	防災ボランティア及び支部職員

【防災セミナーの様子】



災害への備え



各市町村広報誌への防災セミナー実施の掲載

(3) 救護資機材の整備、点検

救護活動を実施するためには、様々な車両や資機材が必要となるので、支部職員は、災害発生時に備え、定期的に災害救援車両や救護資機材の点検を行っています。

令和4年度は支部庁舎に無線 LAN 環境整備を行い、ノートパソコン等携帯端末があればどこでも効率よく災害発生時の通信手段が確保できる体制を整えます。また、応急救護所として活用するエアテントの更新整備を行います。



災害対策本部車両の定期点検



蓄電池の定期点検

2 救急法等の講習

自分自身を守り、家族や地域の人々のいのちや健康を守るための知識と技術を習得できる講習を地域・職域等で行っています。

令和4年度は、仕事内容や時節に応じた赤十字独自の講習メニューを官公庁や企業等に周知し、小規模単位の講習から組織単位での講習依頼に対応できるよう包括的な講習の普及に努めます。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止策のため、対面や集合型の講習の代わりとして、インターネットを活用したオンライン講習も引き続き推進します。

(1) 講習計画の策定（総計 612 回 21,718 人）

ア 救急法（287 回 11,484 人）

日常生活における事故防止、医師又は救急隊に引き継ぐまでの急病やけがに対する救命・応急手当、搬送、災害時の心得などを普及しています。

受講ニーズのほとんどが人工呼吸や胸骨圧迫に代表される一次救命処置であることから、令和4年度は、熱中症等のけがや急病、職業による特有のけがにスポットを当てた講習メニューを用意し、企業や団体向けに講習普及に努めます。

種 別		平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込)	令和4年度 (計画)
基礎講習	回数	29	29	3	21	29
	人数	722	864	102	376	880
救急員 養成講習	回数	17	14	0	3	20
	人数	509	405	0	30	610
短期講習	回数	197	214	77	111	238
	人数	8,763	8,598	1,864	4,283	9,994
計	回数	243	257	80	135	287
	人数	9,994	9,867	1,966	4,689	11,484



一次救命処置（心肺蘇生・AED）



三角巾を使ったきずの手当

イ 水上安全法（73 回 4,849 人）

水を活用して健康の増進を図るとともに、水の事故から生命を守るための泳ぎの基本と事故が発生した際の救助の方法を普及しています。

令和4年度は、当県支部が主催する教員対象の着衣泳指導講習を現在展開している福岡市内だけでなく、県内の他の地域にも拡大し実施できるよう取り組みます。このことによって、教員を通じ

て学校教育の中で児童・生徒に統一した着衣泳（自己保全）の知識と技術を広く学ぶことができるようになります。

種 別		平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込)	令和4年度 (計画)
救助員Ⅰ 養成講習	回数	5	5	0	0	4
	人数	62	67	0	0	110
短期講習	回数	52	66	2	6	69
	人数	3,372	4,646	23	399	4,739
計	回数	57	71	2	6	73
	人数	3,434	4,713	23	399	4,849



自己保全の方法（浮き身）



浮き輪を使った救助方法

ウ 健康生活支援講習（116回 3,318人）

自分の健康増進だけでなく、介護予防や家庭での介護に役立つ内容などを普及しています。

令和4年度は、在宅で介護されているご家族向けのワンポイント講座や、学校の児童・生徒向けの高齢者疑似体験（福祉体験）、介護技術の向上を目的とした介護に携わる職員（初任者）向けの介護講座の実施を関係各所へ働きかけます。

種 別		平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込)	令和4年度 (計画)
支援員 養成講習	回数	7	3	1	0	4
	人数	90	20	8	0	90
短期講習	回数	110	93	42	45	112
	人数	3,070	2,888	953	1,025	3,228
計	回数	117	96	43	45	116
	人数	3,160	2,908	961	1,025	3,318



高齢者疑似体験



車いすからベッドへの移乗

エ 幼児安全法（136 回 2,067 人）

核家族化に伴う子育て世代の不安の軽減を図り、子育てを支援する担い手を増やすため、子どもに起こりやすい事故の予防と手当、かかりやすい病気の看病の仕方、災害時乳幼児支援などを普及しています。

令和4年度は、保育園・幼稚園の保育士（教員）向けや各市町村のファミリーサポートセンターの子育て支援員向けの短期講習を、県内市町村の合同開催など包括的な講習ができるよう関係各所へ働きかけます。

種 別		平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込)	令和4年度 (計画)
支援員 養成講習	回数	10	11	0	0	6
	人数	98	125	0	0	130
短期講習	回数	112	109	51	65	130
	人数	1,799	1,762	631	810	1,937
計	回数	122	120	51	65	136
	人数	1,897	1,887	631	810	2,067



乳幼児の一次救命処置



乳幼児の気道異物除去

（２）新型コロナウイルス感染拡大防止策のオンライン講習の実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、集合型の講習が実施できない場合に備え、当県支部では、令和3年10月からインターネット環境を利用したオンライン講習を実施しています。

今後、新型コロナウイルス感染拡大により対面や集合型の講習が実施できなくなった場合でも講習ニーズに応えられるよう、引き続きオンライン講習を推進してまいります。

さらに、令和4年度は熱中症の対応や応急手当などの新メニューを追加する予定です。

（現行メニュー）救急法：心肺蘇生とAEDの使い方（成人）

幼児安全法：心肺蘇生とAEDの使い方（乳幼児）

健康生活支援講習：地域で支える認知症

防災セミナー：災害への備え



県内の保育園の保育士に対する乳幼児の一次救命処置 ※令和3年11月29・30日実施

3 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神の下に赤十字の使命である人道的活動を実践しようとする人びとが集まり結成された奉仕者組織であり、事業を推進するために重要な役割を果たしています。

令和4年度は、次代を担うボランティアの育成に注力します。また、被災された方の復旧復興を支援するため、家屋の片付けや清掃などを行うボランティア団体の新たな結成を促進します。

(1) 奉仕団活動の推進

地域に根差し地域社会をより良くする地域奉仕団の活動や、専門知識や技術を生かして行う特殊奉仕団の活動などを推進していきます。

ア 炊き出し

災害時に、地域と連携して炊き出しが行えるようにするため、防災訓練やイベントなどでメニューを工夫した炊き出しを行います。

イ 赤十字思想の普及や会員の募集

「人道の達成」を目的とする赤十字の活動について、地域の方々に活動を紹介したり、奉仕団員に対する会員加入の促進及び新規会員の募集活動を行います。

ウ 統一ボランティア DAY2022 における活動

5月8日の世界赤十字デーを中心に5月を赤十字運動月間とし、清掃活動やあいさつ運動など地域のニーズにあった活動を行います。

エ 防災に関する活動

災害発生に備えて自治体主催の防災訓練への参加や赤十字防災セミナーの実施により、地域住民の防災意識を高め、地域の連携を図ります。

オ 福祉に関する活動

各地域の福祉施設での奉仕活動、独居老人の訪問など、各奉仕団の特色を生かしながら活動を行います。

カ 青少年赤十字の推進

加盟促進、青少年赤十字活動の活性化や防災教育プログラムの普及に努めます。

キ 安全思想の普及

人びとの安全と健康を守るための赤十字救急法や水上安全法などの講習を通して、安全思想の普及に努めます。

ク 地域奉仕団研修会等の開催

県内の赤十字奉仕団員の活動の推進を目的に、情報共有や意見交換を行うため、地域奉仕団研修会、特殊奉仕団研修会、青年奉仕団研修会、奉仕団委員長会議を開催します。

また、日本赤十字社本社や第6（九州）ブロックの会議に、ボランティアリーダーが参加します。

ケ 新規奉仕団員への研修会開催（新規）

新たに奉仕団に入団した団員を対象に、支部指導講師を中心としたボランティア基礎研修を開催します。

（2）大韓赤十字社釜山広域市支社との交歓研修

当県支部は、1975年（昭和50年）に大韓赤十字社釜山広域市支社と姉妹協定を締結し、以来46年間にわたり両支社（部）の赤十字奉仕会及び奉仕団員が、各年毎に相互に訪問し、お互いの赤十字活動に対する理解と友好親善を深めています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため令和2年度・令和3年度と延期になった大韓民国釜山市への奉仕団派遣を行う予定としています。



大韓赤十字社釜山広域市支社での事業活動紹介等の様子 ※令和元年度実施時

（3）奉仕団活動への助成等

奉仕団活動の充実や新規結成を促進するための助成等を行います。

- ア 特殊奉仕団及び青年奉仕団に対する運営費の助成
- イ 奉仕団新規結成に対する費用の助成
- ウ 各奉仕団の活動に役立つ情報や資料などの提供

4 青少年赤十字

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の理念に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的にしています。

この目的を達成するため、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標と、メンバーの主体性を育む「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げ、学校教育の中でさまざまな活動を展開しています。

令和4年度は、青少年赤十字創設100周年の年にあたることから、各種記念イベントや行事を開催します。

(1) 青少年赤十字の活動支援

青少年赤十字の普及のための支援を行います。

ア サポートプログラムの提供

- 例 ・職員等の派遣（加盟登録・更新式、救急法、着衣泳、福祉体験、幼児安全法 等）
- ・施設見学の受入（福岡県支部、赤十字施設への見学調整 等）

イ 授業支援（赤十字活動、国際人道法、国際理解、防災教育 等）

ウ 青少年赤十字活動実践校募集（5校/年）

エ 青少年赤十字研究推進校指定（指定期間 原則3年）

(2) リーダーシップ・トレーニング・センターの開催

県内の小・中・高等学校の加盟校のメンバーが一堂に会し、赤十字の精神に基づく自主性と指導性、救急法などの知識・技術などを集中して学習することで、「気づき」・「考え」・「実行する」態度を育て、学校内または地域において、青少年赤十字リーダーとして活動する児童・生徒を養成します。

事業名	時期	期間	場所	定員
県リーダーシップ・トレーニング・センター	8月	3日	筑前町	100人
地区一日リーダーシップ・トレーニング・センター	10月 ～12月	1日	北九州市 南筑後地区 京築地区	各30人



リーダーシップ・トレーニング・センターにおけるフィールドワークの様子 ※令和元年度実施時

(3) 国際交流事業（大韓赤十字社釜山広域市支社 RCY メンバー受入）

青少年赤十字の実践目標の1つである「国際理解・親善」の一環として、姉妹協定を締結している大韓赤十字社釜山広域市支社 RCY メンバーと、仲良く助け合う精神を養うことを目的に、毎年交互に訪問・受入を実施しています。令和4年度は同支社のメンバーを本県青少年赤十字メンバーがホストファミリーとしてホームステイの受入れを行う予定としています。

事業名	時期	期間	場所	定員
国際交流事業（韓国 RCY メンバーの受入）	調整中	4 日	福岡県	7 人

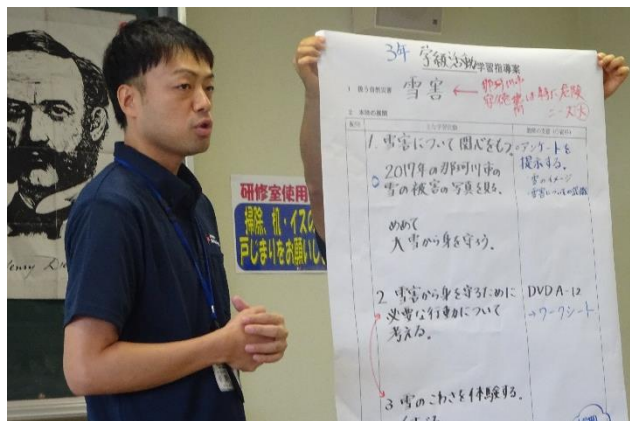


ホスト校（小学校）での対面式の様子 ※令和元年度実施時

(4) 青少年赤十字指導者の養成

青少年赤十字の活動を広め、その内容を充実させるためには、指導者を養成することが肝要であることから、指導者養成講習会等を開催します。

会議・講習会名	時期	期間	場所	参加者（定員）
福岡県青少年赤十字指導者協議会総会・講演会	5 月	1 日	福岡県	教職員（60 人）
九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会	8 月	3 日	福岡県	指導者（30 人）
福岡県青少年赤十字研究会	2 月	1 日	福岡県	教職員（60 人）



指導者養成講習の様子 ※令和元年度実施時

(5) 防災教育の推進

文部科学省の協力、気象庁の監修のもと、日本赤十字社本社において作成した防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」（小・中・高向け）、「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」（園児向け）を活用しての出前授業、炊き出し、災害時に役立つ講習を行うなど、防災教育を推進し、園児・児童・生徒が自然災害に対する正しい知識を持ち、自ら考え、判断し、危険から身を守ることができるようになることを目指します。

- ア 学校が主催する防災教育等において防災教育を実施
- イ 行政が主催する防災訓練等において防災教育を実施
- ウ 地域が主催する夏季休暇授業における防災教育を実施
- エ 防災教育及びプログラムについて研修会を開催（各政令指定都市及び各教育事務所 8 会場）
- オ 教育委員会と連携し協力を得ながら、各地域の校長会、教頭会でプレゼンテーション
- カ 指導者の養成やメンバーの育成を行う講習会等での活用
- キ 加盟校で、防災教育プログラムを活用した授業を公開
- ク 久留米赤十字会館を活用した避難所体験学習会を実施（新規）

【防災教育実施計画】

対象	回数	内容
園児・児童・生徒（防災教育出前講座）	20 回	・「防災教育プログラム」を活用した授業 ・炊き出し・救急法 ・災害時に役立つ講習
児童・生徒（リーダーシップ・トレーニング・センター）	4 回	
教職員（青少年赤十字指導者養成講習会）	1 回	



青少年赤十字防災教育プログラム

「まもるいのちひろめるぼうさい」（全校配布）



「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」

（加盟園配布）



防災教育出前講座での「炊き出し」や「災害時に役立つ講習」の様子

（６）新規加盟の促進

特に加盟校の少ない「筑豊地区」及び「京築地区」を重点取組み地域と位置付け、加盟勧奨を行います。

- ア 教育委員会や各教育事務所、地域で開催される校長会、教頭会での勧奨
- イ 未加盟校を訪問しての勧奨
- ウ 県内の指導主事及び教員を対象に福岡県赤十字研究会を開催

（７）青少年赤十字創設 100 周年記念イベントの開催

令和４年度は青少年赤十字創設 100 周年を迎えるため、青少年赤十字活動校（園）の表彰や防災に関する記念講演、体験学習など記念式典を開催します。また、この記念式典の中で、青少年赤十字活動に貢献のある学校（園）に記念品を贈呈する予定です。

（８）県内留学生との交流会を開催（新規）

衣食住をはじめ音楽や伝統的な遊びなどを通して多様な文化を学ぶ機会を提供するため、県内大学に通う留学生との交流会の開催を予定しています。

事業名	時期	期間	場所	定員
国際交流事業（県内留学生との交流会）	調整中	１日	福岡県	30 人

5 国際活動

現在、世界各地では相次ぐ紛争や暴力行為、激甚化する自然災害、一向に収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症のまん延などにより、多くの人々が命をつなぐための支援を必要としています。

日本赤十字社は、世界 192 の国と地域に広がる各国赤十字・赤新月社や、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と協力・連携し、共通の基本原則のもと、様々な人道危機に取り組んできました。今まさにその場所で支援を必要としている人に手を差し伸べる「緊急救援」から「復興支援」、そして自分たちの力で災害に対して立ち上がることができる「レジリエンス（回復力）」を高める活動を通じて、現代の、そして未来に続く人道危機に立ち向かいます。

（１）国際救援・開発協力要員派遣事業

日本赤十字社の国際活動は、日本赤十字社本社と支部・施設間の相互の十分な連携と調整の下で実施されます。

令和４年度も、感染症対策等の安全管理を徹底したうえで、救援・支援のため、世界各地を訪問する活動に当県支部も積極的に参画します。



ハイチ地震救援事業のため現地で活動を行う福岡赤十字病院看護師

（２）「NHK 海外たすけあい」キャンペーン

日本赤十字社では毎年 12 月 1 日から 25 日まで日本放送協会（NHK）及び NHK 厚生文化事業団との共催で「NHK 海外たすけあい」キャンペーンを実施しています。

令和４年度も世界各地で多発する紛争や自然災害等による犠牲者の緊急救援、保健衛生及び防災・減災等の分野における開発協力事業を実施するため、当県支部においても関係各所と連携して引き続き取り組みます。



NHK 北九州放送局における初日セレモニー



北九州市門司区街頭募金の様子

6 活動資金の募集

日本赤十字社が行っている様々な活動は、県民の皆様から寄せられる活動資金により成り立っております。当県支部の活動資金の多くは、地区分区を通じた地域の募集奉仕者の方々による直接訪問や町内会、自治会などを通じたご協力、企業・団体からのご協力によるものです。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大により、地区分区を通じた活動資金が大きく減収するなど、活動資金募集を取り巻く環境は厳しくなっています。

このような中、これまで以上に一人でも多くの方々に赤十字活動に対してのご理解をいただけるよう弛み無い努力をし、末永くご支援をいただけるよう努めてまいります。

(1) 活動資金目標額

目標額	種別	
500,000,000 円	一般	425,000,000 円
	法人・団体	75,000,000 円

(2) 地区分区における活動資金の募集

これまで県内各地域で開催していた活動資金募集会議等も、3密を避ける必要から開催形式の見直し等が行われ、活動資金募集に影響があったものと思われます。

地区分区担当職員の方々には、これまで同様、「新規の会員及び協力会員の募集拡大」と「既加入会員の協力継続」を県民の皆様にご理解とご協力をいただけるよう募金活動をお願いしていきます。

より多くの方々に赤十字活動を知っていただき、活動資金に協力をいただくため、分かり易い募集資材の作成を行うとともに、地区分区での活動資金募集チラシの全戸配布を推進していきます。



赤十字活動資金募集パンフレット



ステッカー

(3) 法人の活動資金協力の推進

法人の活動資金募集については、ダイレクトメールでご協力をお願いするとともに、支部職員で勸奨班を編成し、直接訪問による協力依頼(法人勸奨)を行っています。

この法人勸奨では、地区分区の職員や紺綬会役員の皆様からご協力やご紹介をいただきながら、活動資金の募集を行っています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、訪問活動の一部に制限が生じましたが、

令和4年度は、感染防止に充分配慮しながら、関係各位のご支援のもと、赤十字活動の主旨を広め、当県支部事業の基盤強化を図ってまいります。

(4) 遺贈・相続財産寄付の取組強化

近年、全国的に遺贈や相続財産寄付が増加しております。当県支部においてもお問合せをいただいておりますが、多くの方からご寄付いただけるよう、地方銀行や信託銀行、県内弁護士会、税理士事務所等関係機関にご協力をお願いしてまいります。



遺贈・相続財産に関するパンフレット

(5) 企業・団体の社会貢献事業とのタイアップ

店舗等へのチャリティーボックス（募金箱）の設置や収益の一部を寄付していただく支援型自動販売機の設置、赤十字支援マーク活用による支援などを通じて、企業・団体が赤十字支援を社会貢献（CSR）の一環として組み込んでいただけるよう、様々なメニューをご用意しています。

法人活動資金募集のためのダイレクトメールや法人勧奨で訪問した際にご説明するなど、赤十字支援の裾野を広げていきます。



支援型自動販売機



チャリティーボックス（募金箱）

(6) 福岡県日赤紺綬会の活動

福岡県日赤紺綬会は、昭和34年に北九州市小倉北区（当時の小倉市）で発足した「紺綬会」をもとに誕生した赤十字支援団体です。これを契機に、全国で同様の組織が誕生し、今では47都道府県全ての支部に紺綬（有功）会組織が発足しています。

令和4年度は、「福岡県日赤紺綬会第62回総会」を福岡市で開催する計画としています。同総会

では、多額の活動資金にご協力をいただいた個人、法人等を顕彰します。

開催：令和4年11月または12月 開催日未定

会場：電気ビルまたはホテルニューオータニ博多(福岡市) 未定



式典

アトラクション（飯塚高等学校 吹奏楽部）

福岡県日赤総会第61回総会

（7）赤十字奉仕団のご協力

福岡県内には54の赤十字奉仕団が組織され、様々な奉仕活動をしていただいております。

令和4年度も引き続き、赤十字活動資金の募集にもご協力いただき、安定的な活動資金確保に繋がってまいります。

（8）血液センターと連携した活動資金募集の充実強化について

福岡県赤十字血液センターの協力を得て、献血者、献血推進団体等に対し、活動資金募集用パンフレットを配付し、赤十字会員の増加と赤十字活動資金の増強に努めます。

実施2年目となる令和4年度は、福岡県内全域へ配布を行います。

7 広報

赤十字の使命や活動内容を一人でも多くの方々に理解していただくため、様々な広報ツールをもとに情報発信を行っています。

令和4年度は、引き続き5月の赤十字運動月間を中心に、地区分区や奉仕団、管内施設などの関係団体の協力を得て赤十字運動を推進するほか、地元放送局と連携して赤十字活動の情報を発信し、防災・減災の意識と赤十字の認知度を向上させる取り組みを実施していきます。

また、福岡県支部 Web サイトに加え、令和3年度に開設した Twitter による情報発信を行ってまいります。

(1) 赤十字運動月間の取り組み（5月）

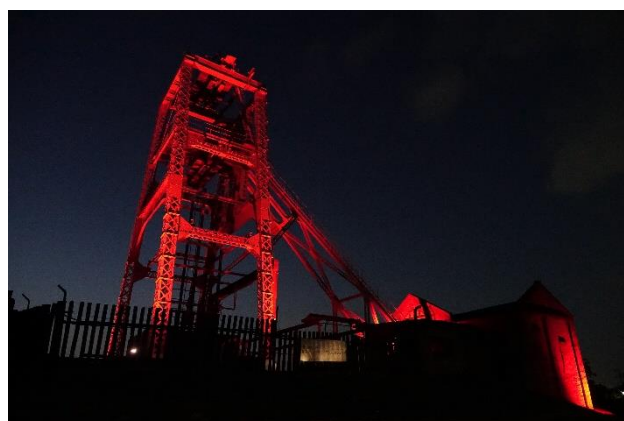
赤十字の創始者アンリー・デュナンの誕生日（5月8日）と日本赤十字社の前身である「博愛社」の設立日（5月1日）である5月を「赤十字運動月間」とし、赤十字思想・活動に対する理解を深めてもらうイベントや広報活動を全国各地で展開しています。

県内においては、以下の広報活動を展開します。

- ア 管内施設と共同による赤十字イベントの実施
- イ 県内の歴史的建造物を使用したレッドライトアッププロジェクトの実施
- ウ JR や西鉄の駅構内で赤十字活動資金募集チラシの配布
- エ 県内のテレビ局で本社制作の赤十字紹介用 CM を放送



赤十字フェスティバル ※令和元年度実施時



レッドライトアッププロジェクト（三池炭鉱宮原坑）



街頭キャンペーン（JR 博多駅） ※令和元年度実施時



令和3年度赤十字運動月間 TVCM

(2) マスメディアとの連携

近年の活動資金の減少に歯止めをかけるため、地元放送局とタイアップし、災害時の救護活動や救急法等の講習などの赤十字活動を取り上げてもらうことで、防災・減災意識の向上を図るとともに、活動資金の確保につなげていきます。

地元放送局とのタイアップ事業内容（予定）

- ア 青少年赤十字 100 周年企画として防災セミナーの共催（テレビ取材）
- イ 災害救護や青少年赤十字、ボランティア等についての紹介（テレビ生中継・ラジオ収録）
- ウ イベント開催や献血等の告知（テレビ生出演）
- エ 年間を通した福岡県支部の活動についてのニュース取材（テレビ収録・インターネット）



防災セミナーの共催（宇島小学校）



災害救護活動についての紹介（テレビ生中継）

(3) 広報資材を活用した地域への取り組み

各市区町村主催の市民参加型イベント内で、赤十字事業紹介パネルや救援物資などを展示し、赤十字活動を理解するきっかけづくりに取り組みます。

また、子ども用の救護服・ナース服の着用体験や日本赤十字社マスコットキャラクター「ハートラちゃん」の着ぐるみによる呼びかけで、PRを行います。



事業紹介パネルの展示（福岡市防災フェア）



「ハートラちゃん」と記念撮影 ※令和元年度実施時

8 久留米赤十字会館 ～多目的・多機能を備えた新たな会館へ～

久留米赤十字会館は、災害救護備蓄倉庫を併設する会館として、平成14年の開館から約20年間、ホームヘルパー養成事業や各種講習会、訪問介護事業等を実施してまいりましたが、令和3年3月末の温水プール及びフィットネスルーム健康増進事業の終了以降、新たな会館づくりを目指します。

今後は、九州縦貫道路網の結節点に近く交通アクセスに優れた立地と5階建てで多用途に活用可能な会館の会議室などを、これまで以上に活かしてまいります。

近い将来、発生が確実視される南海トラフを震源域とする巨大地震災害や、近年九州で毎年のように発生している線状降水帯を伴った局地的豪雨災害への備えは喫緊の課題となっておりますが、他県へ応援を要請しなければならないような大規模災害時に全国から集結する赤十字救護班を当会館に受け入れ、被災情報の収集や関係機関との連絡調整を行うなど、県内外における災害救護活動の拠点機能を担えるよう機能を整備いたします。

また、災害時だけでなく、平時においては、防災・減災普及のための各種セミナーや講習、奉仕団や被災者支援ボランティアの活動拠点、「日赤紺綬会発祥の地、福岡」として紺綬会の沿革や歴史年表等を展示する赤十字の広報コーナーを設置する等、多目的、多機能を備えた諸室の集まりである「会館」としての機能を充実させてまいります。

特に、令和4年度は日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練の開催担当県であることから、当会館を九州各県救護班の参集拠点として積極的に活用するとともに訓練を実施いたします。

(1) 平時の活用

当館は、1階から5階まで多くの諸室を備えており、南側には災害救護備蓄倉庫を併設しています。当初より備わっていた研修等設備をさらに有効活用するために、防災・減災のための座学研修をはじめ、北側の大型駐車場を活用し、当県及び九州各県救護班の実践的な研修や実働訓練会場として活用するほか、講習室は、救急法等各種講習、行政との協働による研修会、赤十字奉仕団や防災ボランティア研修、JRC（青少年赤十字）の防災教育事業等に有効活用してまいります。

さらに、県民の皆様に、もっと赤十字を身近に感じていただけるよう赤十字コーナーも設置いたします。

(2) 災害時の活用

当館は、九州縦貫道路網の結節点（鳥栖JCT）に近く交通アクセスに優れた立地と5階建てで多用途に活用できる諸室、さらには大型の災害救援車両が数十台駐車できる広大な駐車場を兼ね備えていることから、全国から集結する救護班要員の参集施設、救援物資や救護資機材等の補充、情報収集の機能を持つロジスティクス中継拠点として位置づけ、広域災害時の拠点を整備するとともに九州ブロック代表支部としての役割を果たします。

ロジスティクス中継拠点として、久留米赤十字会館の特筆すべき点は、平時利用から災害時利用へのシームレスな切り替えに重点を置いている点にあります。平時に会議室及び研修室として利用する各室は、ワンタッチパーテーションやスリーピングマットを展開するだけで、災害発生後即座に救護員室へと切り替わり、救護班の一時待機及び宿泊施設としての機能を持たせることができます。

主な、諸室の名称と用途は以下のとおりです。

(3) 諸室名称と用途

久留米赤十字会館諸室の名称（変更後）

階	名称	用途
1 階	災害対策室	各県参集救護班のブリーフィングエリアとして活用 平時は新型コロナウイルス感染症下におけるリモートワーク 及びオンライン講習スタジオとして活用
	赤十字奉仕団活動室	地区奉仕団、被災者支援ボランティア会、青年奉仕団の活動 拠点 奉仕団・青少年赤十字の国際交流事業記念品の展示
	紺綬会室	福岡県は紺綬会発祥の地であることから、沿革パネル及び有 功章等表彰物品（見本）を展示 紺綬会支会や奉仕団会議等で活用
2 階	救護員室	救護員待機室及び宿泊スペースとして活用
	会議室	貸会議室及び災害時は救護員宿泊スペースとして活用
3 階	講習室 1・2	救急法等各種講習のほか、本社及び九州ブロック合同会議の 会場として活用 企業や団体様向け貸会議室としても活用
	赤十字コーナー	赤十字事業の紹介のほか、災害救援物資やパネル展示等
4 階	リラクゼーションルーム ミーティングルーム	こころのケア要員研修の実践研修の場として、また、メンタ ルヘルス不調職員の相談・面談の場所、活動が長期化した救 護員がリラックスできるスペースとして活用



久留米赤十字会館外観



訓練を行う救護員



研修室での救急法講習



災害時に物資を積み込むボランティア

9 医療事業

(1) 福岡県内の赤十字病院

(令和4年度)

区分	許可病床数 (床)	診療科数 (科)	年間延患者数	
			入院(人)	外来(人)
福岡赤十字病院	511	36	163,955	228,542
今津赤十字病院	180	7	63,072	22,685
嘉麻赤十字病院	135	14	38,314	47,601

(2) 各病院の令和4年度の主な施策

ア 福岡赤十字病院

○質の高い医療の提供

- ・「入退院支援センター」稼働による多職種協働の支援体制構築を強化します。
- ・最新鋭のデジタルマンモグラフィ装置、MRI装置、血管造影装置(アンギオ)及び手術支援ロボット(ダビンチ)による質の高い医療を提供します。
- ・「地域がん診療連携拠点病院」指定を受け、「がんゲノム医療連携病院」指定へ向けての活動を開始します。
- ・高度な新規医療の積極的かつ安全・適切な導入体制を整備します。
- ・信頼される医療を提供するための安全文化、改善文化の醸成ならびに感染管理体制の更なる充実を図ります。

○災害医療・国際活動ならびに日赤グループ内人材派遣の充実

- ・地域の災害医療・防災関係者との連携・協働による災害救護体制の強化及び医療救護資材・医薬品を整備します。
- ・災害救護及び国際医療救援に対する積極的な人材育成及び派遣を推進します。
- ・さまざまな災害を想定したBCP(事業継続計画)に基づく自院の早期復旧と診療体制維持に向けた訓練等を実施します。
- ・医師・看護師不足病院への積極的な人材派遣を推進します。

○公的医療機関としての地域医療の連携強化

- ・高度急性期を担う基幹病院としての医療提供体制の充実と地域医療構想への確実な対応を行います。
- ・「地域医療支援病院」としての医療機能及び連携の強化、ならびに地域住民・地域公的団体との協力体制を推進します。
- ・「感染症指定医療機関」としての近隣病院との連携ならびに社会的貢献を推進します。
- ・「へき地医療拠点病院」指定医療機関として、玄界島等へ積極的に医師を派遣します。
- ・Dr. Cross Heart や病診・病病連携連絡協議会等を利用し、地域医療機関と連携を強化します。

○最良の医療提供による患者満足度の向上

- ・「JMIP(外国人患者受入れ医療機関認証制度)」認証更新による外国人患者のスムーズな受入れを推進します。
- ・医療ソーシャルワーカー増員による入退院支援及び相談支援を強化します。
- ・患者満足度向上につながる外来診療体制適正化を推進します。
- ・窓口業務の円滑化、外来コンシェルジュ配置ならびに全職員における接客意識向上に努めます。

○働きがいのある職場づくり

- ・働き方改革に対応した職員の勤怠管理の徹底とモチベーション向上につながるワーク・ライフ・バランスを推進します。
- ・職員休憩室「コモンズ」の積極的活用による快適な職場環境づくりに努めます。
- ・「福利厚生倶楽部」等を活用して充実した福利厚生提供基盤を構築します。

○人材の確保と育成

- ・「JCEP（卒後臨床研修評価機構）」認定による臨床研修病院としての質の向上及び人材の確保に努めます。
- ・「看護師特定行為研修指定研修機関」としての高度かつ専門的な知識及び技術を修得した看護師の育成と活用環境の整備を行います。
- ・「院内保育所（キッズクロス）」及び「病児保育」拡充による人材確保を推進します。
- ・病院運営に有用な多職種人材の積極的な確保と適切な活用を行います。

○健全な経営

- ・診療密度・診療効率等の向上による DPC 特定病院群の要件を維持します。
- ・診療報酬改定へ向けての早期の情報収集及び対応策を検討します。
- ・収益増加及び連携強化を目指した病床管理体制の充実を図ります。
- ・予算管理の徹底、省エネ対策、共同購入、後発薬品採用などを含めた経費節減の継続と推進を行います。
- ・赤十字病院グループデータベースの活用による経営分析等を強化します。
- ・人間ドック・健診センター及び治験受託収益等医業外収益の増収による病院経営の更なる安定化を図ります。



2021 年 10 月更新「デジタルマンモグラフィ」



川口看護師_病院 ERU で手術中の様子
(ハイチ地震救援事業)

イ 今津赤十字病院

○新型コロナウイルス感染症の医療体制確保

- ・新型コロナウイルス感染症の更なる流行に備え、感染拡大時に確保する専用病床を2床から3床へ増床します。
- ・急性期病院からアフターコロナ患者を受け入れるとともに、近隣福祉施設や地域住民に対する新型コロナウイルスワクチン接種を推進します。

○認知症医療の推進

- ・内科・精神科医師の協力のもと、今後増加が見込まれる認知症患者の医療に取り組みます。
- ・入院では認知症専門病棟を有する病院として、きめ細かな治療やリハビリにより社会復帰が困難な患者の支援を行います。
- ・外来では「もの忘れ外来」により認知症早期発見に努め、認知症サポート医による診療所の認知症診療のサポートも積極的に行います。
- ・重度認知症デイケアでは稼働日を増やし、地域においては「認知症カフェ」や「認知症サポーター養成講座」について感染状況を見ながら実施します。

○神経難病医療の推進

- ・神経難病を対象とする専門外来・障害者病棟の機能をより充実させるため、福岡大学病院神経内科との連携を強化して常勤医師の確保を図り、急性期病院からの患者受け入れに努めます。
- ・「福岡県・佐賀県重度難病患者レスパイト入院事業」契約を継続し、レスパイト入院を推進します。

○地域医療連携室の機能強化

- ・地域医療連携室の相談員の補充により新たな体制強化を図り、急性期病院・診療所・福祉施設との連携を再構築し、地域医療への貢献に努めます。

○訪問看護ステーションの推進

- ・乳幼児から高齢者・精神障害者・終末期患者を専門的な看護経験を有する看護師を配置し、機能強化型訪問看護ステーションとして、患者が安心して在宅にて生活できるよう支援を行います。



新型コロナウイルス感染防止対策
(病院玄関での検温・手指消毒)



認知症サポーター養成講座

ウ 嘉麻赤十字病院

○新型コロナウイルス感染症への対応

- ・新型コロナウイルス感染症への対応においては、新型コロナ陽性患者の受入医療機関として、今後の感染患者増加に備え、福岡県の医療提供体制に応じた受入体制を確保するとともに、診療・検査医療機関として LAMP 法による核酸増幅検査を活用し、発熱患者等の診療を令和3年度以上に積極的に行います。また、地域住民の健康確保に貢献できるようワクチン個別接種や、集団接種への医師派遣協力を行うとともに、地域でのクラスター発生防止と併せて職員の安全管理を含めた院内感染防止対策の強化に繋がります。

○医師並びに医療従事者の人材確保

- ・良質な医療サービスの提供体制を確保するためには、医療従事者の人材確保は必須要件であります。近年、医師だけでなく、医療従事者全般の人材確保が厳しい状況であるため、大学医局及び地元の人材養成を行う医療系関連学校との連絡を密にし、多種の求人募集広告を有効活用するとともに人材紹介業者との連携を強化し、安定的な人材確保に努めます。

○病床利用率の向上

- ・安定的な病院経営のために、地域の医療機関及び介護施設等との連携を強化するとともに、新規の連携施設等の確保に努めます。また、救急搬送の応需率向上とともに積極的な入院受入れを行い、適正な病床管理（ベッドコントロール）と特に地域包括ケア病棟（病床）の適切な在院日数管理を行うことで病床利用率の向上を図ります。

○在宅部門と退院支援の強化

- ・居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、通所リハビリテーション、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の在宅部門が積極的に退院支援に携わり、退院後の在宅サービス利用の推進を図るとともに訪問診療の拡充（特に個人宅）に努め、病院との情報共有を強化して在宅サービス利用者と入院・外来患者の増加に繋げ、双方の収益向上を目指します。

○健診事業の強化

- ・新規受診者及び再受診者の増加に努めるとともに、オプション検査を積極的に推奨し、収益向上に繋がります。特に、特定保健指導対象者への継続的な健診受診を勧奨するとともに、精密検査や治療が必要な対象者を外来受診に繋ぐことに努めます。

○施設設備の計画的な維持管理の推進

- ・建築後約 40 年が経過し施設設備の老朽化対策を行っておりますが、より安定的な健全経営を維持するために中・長期的な更新整備を考慮した予算編成に基づく病院施設の維持管理を推進し、収益並びにサービスの向上につながる部門への設備投資を行い、より良い患者サービスの提供と療養環境の改善を図ります。



新型コロナウイルス患者受入病床（3床）
（簡易陰圧装置設置）



プレハブ内の発熱外来診察室

10 血液事業

(1) 福岡県赤十字血液センターの事業方針

ア 献血者確保

○若年者献血普及啓発活動

- ・献血セミナー、キッズ献血等を実施し、10代や20代の若年層を対象とした普及啓発活動を推進します。

○予約献血の推進

- ・血液の安定供給確保のため、予約献血の推進を強化します。

○複数回献血者の確保

- ・献血 Web 会員サービス「ラブラッド」は、献血者への情報発信のほか、献血の Web 予約や血液の検査結果、献血記録、次回献血可能日などの確認もでき、全国共通のポイント制度の導入により一定のポイント数と記念品が交換できる等、利便性が向上しました。また、複数回献血者を確保するため、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」を活用した依頼要請を行い予約率の向上を図るとともに、更なる新規会員の募集に努めます。

○献血組織等との連携強化

- ・献血協力団体である県内の市区町村献血推進担当者、献血推進協議会及びライオンズクラブとの研修会を実施し、献血組織等との連携を強化します。

イ 安定供給

○需給予測の精度向上

- ・新型コロナウイルス感染症の影響が危惧されるため、医療機関等との連携を強化し、輸血用血液製剤の需要動向の情報収集により一層努めます。
- ・精度の高い需要予測をもとに安定供給を図るとともに、九州ブロック血液センターと協力し、広域的な需給管理体制の充実を図ります。
- ・輸血用血液製剤の受発注業務の効率化を図るため、令和2年度に導入された新たな血液製剤発注システムを利用した Web 発注への転換を推進します。

ウ 地域医療機関への技術協力

○医療機関担当者への研修会の開催

- ・血液事業の専門機関として、地域医療機関の臨床検査技師や看護師に対し、輸血検査と穿刺技術の向上を目的とした研修会を開催します。

○血液製剤の適正使用の推進

- ・医療機関の血液製剤担当者を対象に血液事業全般に関することや、今後の血液事業についての研修会を開催することにより、血液センターと医療機関との信頼関係を構築し、安定供給・適正使用への理解を図ります。

(2) 令和4年度採血計画

(単位：本)

区分	全血献血		成分献血		合 計
採血数	200mL	400mL	血漿献血	血小板献血	
	0	146,949	46,332	22,227	215,508

(3) 令和4年度血液製剤供給計画

(単位：本)

区分	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	合 計
供給数	133,270	32,806	29,343	195,419



高校における献血セミナー



学生ボランティアによる献血呼びかけ



献血ルームにおける成分献血



輸血用血液製剤の搬送準備

11 社会福祉事業

(1) 福岡県内の社会福祉施設

【定員数】

(人)

区 分	特別養護 老人ホーム	ショート ステイ	デイサービス センター	軽費 老人ホーム
大寿園	150	8	45	
やすらぎの郷	100	20	45	20
豊寿園	100	20	12	

※各施設に指定居宅介護支援事業（ケアプランセンター）を併設しています。

(2) 各施設の令和4年度の主な施策

ア 特別養護老人ホーム大寿園

○新型コロナウイルス感染症予防への取り組み

- ・新型コロナウイルス感染症を始めとする各種感染症予防対策として、ウィルスを「持ち込まない、持ち出さない、拡げない」ことを職員一人一人が認識、自覚し感染防止に取り組みます。

○介護職員の人材確保と教育環境の充実

- ・人材確保対策として福祉系専門学校との連携による実習生受入れや派遣職員の中で、優秀な人材を職員として採用する等により、安定的な人材確保に努めるとともに、e ラーニングを活用した研修の充実により、良質な介護サービスの提供に努めます。

○施設設備の更新及び労働環境の整備

- ・国や自治体等の各種補助金を積極的に活用し、老朽化した施設設備の更新を計画的に行うとともに、ICT やロボット機器を導入することで、介護職員の労働環境の改善に取り組みます。

○奉仕団等ボランティア活動の受入れ

- ・感染症対策を徹底し、工夫を凝らしながら段階的にボランティア活動の受入れを行い、利用者の生活環境を活気あるものにし、施設の活性化に繋がります。

○地域貢献活動の推進

- ・今津福祉村施設部会の一員として所属する医療施設や福祉施設と連携を図り、コロナ禍でも実行可能な地域貢献活動に取り組むとともに、近隣校区において展開していた「介護予防教室」や、新たに「感染症予防教室」等を開催し、地域に貢献します。

○安定運営に向けた取り組み

- ・令和3年度に取得した科学的介護情報システム（LIFE）の活用を要件とする「科学的介護推進体制加算」「ADL 維持等加算」の他に新たな加算を取得できるよう体制整備を図ります。



園内喫茶



秋祭り

イ 特別養護老人ホームやすらぎの郷

○安定した利用者確保

- ・ケアプランセンターからデイサービスセンター、ショートステイ、特別養護老人ホームの入所まで切れ目なく介護サービスの提供が可能であること、さらには“看取り介護”の取り組みと実績をアピールします。
- ・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所のケアマネージャー等との連携を強化します。
- ・利用者の健康面における協力医療機関との強固な連携体制をアピールします。
- ・特養における空床情報のリアルタイム発信、退所が発生した場合の待機者等の入所手続きの効率化・迅速化を図ります。

○利用者の安全性及びサービスの向上

- ・新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策の強化徹底を推進します。
- ・転倒事故防止措置の一環である特養東棟内入居者生活スペース床の改修工事による安全性の確保を図ります。
- ・「人としての尊厳を守る」ことを念頭に、看取り専用個室2室の有効活用による看取り体制のさらなる充実とサービス向上を図ります。
- ・見守りカメラ（介護ロボット）の有効活用によるリスクマネジメントの充実・強化を図ります。
- ・コロナ禍における面会サービスを促進します。（Web やオンラインカメラ等を有効活用）

○介護人材の確保と育成

- ・日本赤十字社本社の福祉サービス強化事業による補助金を有効活用し、施設間交流研修等を積極的に実施します。
- ・指定介護専門学校奨学会加入（令和3年度）に伴う介護実習生の受入れを積極的に進め、外国人を含む介護職員の確保に取り組みます。
- ・職員の資質の向上を図るための実践リーダー研修や指導員研修などのステップアップ研修を推進します。

○地域との連携及びボランティア活動の強化

- ・福岡ライフレスキュー事業への参画、もっとクロス講座“地域と老いを考える会”の開催、認知症キャラバンメイト及び認知症サポーターの育成を継続的に推し進めます。
- ・地元自治体から要請である認知症初期集中支援チーム（桜花）へ継続的に参画します。
- ・福祉避難所としての役割を地域住民、自治体、県支部と連携して推進します。
- ・WEBを活用した各種ボランティア団体・個人との連携維持・強化を図ります。
- ・「介護支援活動」「文化的支援活動」「施設運営・環境整備」の各部門別のボランティア体制づくりと加入促進を進めます。



秋祭り「やすらぎ獅子舞」



棟内レクリエーション

ウ 特別養護老人ホーム豊寿園

○新型コロナウイルス感染症等各種感染症の予防

- ・令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策を中心とする職員行動計画に基づいた対策を実施しています。
- ・厚生労働省や北九州市等が発信する情報等への迅速かつ的確な対応により、引き続き全職員が一丸となって最大限の感染症対策を講じます。

○利用者サービスの更なる充実

- ・開園以来取り組んできた重度の認知症介護に加え、嘱託医や協力病院と連携して、介護・看護が一体となり感染症予防や体調管理を行うとともに、歯科衛生士による口腔ケアや看取り介護の充実に向け取り組みます。
- ・老朽化した介護機器等を計画的に更新することで、利用者が安心して過ごせる環境づくりを行います。

○福祉人材の安定確保

- ・福祉人材安定確保のため、北九州市内にある福祉科を持つ高等学校との連携や実習生の受け入れを行うとともに、シニア層の有効活用を推進します。

○職場の資質向上や職場環境の整備

- ・直接処遇職員の資質向上や高いモチベーションを保ち、質の高い介護サービスを提供するため、各種外部研修会への参加や園内における勉強・研究会を計画的に実施し、長く働ける将来の展望が持てる職場づくりを目指します。

○ボランティアとの連携強化

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、近年、ボランティアの受け入れができなかったことから、令和4年度は、業務の一部をボランティアに担ってもらうことで職員の専門スキルを最大限生かせられる環境を整え、利用者の活気ある生活を確立するために、各種ボランティア活動を可能な限り受け入れます。

○地域への福祉サービスの向上

- ・「地域に愛される施設を目指す」という基本理念のもと、当園が今日まで培ってきた高齢者介護、特に認知症専門職としての知識やノウハウを地域へ還元し、地域に貢献するため、福祉体験講座の開催や地元校区の小学校等へ講師派遣を行います。

○計画的な施設整備改修及び将来に備えた資金積立

- ・改修が必要と予測される設備機器等について、事業運営に支障が生じる事のないよう計画的な改修に取り組むとともに、安定した資金積立を行います。



地域ボランティアとの交流



行事「敬老会」

12 看護師等の養成

日本赤十字社が行う救護員としての看護師養成は、130年以上の長い歴史と伝統を持つ重要な事業の一つであり、医療施設だけでなく、国内の災害救護活動、海外での災害・紛争犠牲者の救援のために活躍できる看護師を養成しています。

(1) 日本赤十字九州国際看護大学における赤十字看護師の養成

ア. ビジョンと計画

建学の精神である赤十字の基本理念「人道」に基づき、平成13年の開学当初から掲げてきた「ひとりを看る目、その目を世界に」のスローガンの実現に向け、看護・保健医療の専門家育成のための教育等に取り組んでいます。現在、学部、大学院併せて約2,000人の卒業生が、赤十字の医療施設をはじめ様々な機関で活躍しています。

多様性や適応能力を学び舎に醸成していくことをビジョンに掲げ、「質の高い教育実践」、「ICTを活用した教育」、「日本赤十字学園大学間の連携を活かした運営」、「地域社会との連携・社会貢献」、「健全な経営基盤に立つ成長する大学」の5つの計画のもと、質の高い看護師等を養成していきます。

(人)

	看護学部看護学科		看護学研究科 (修士課程)		看護学研究科 (博士後期課程)	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員
1年	100	116	10	8	2	2
2年	100	108	10	14	2	3
3年	100	121	－	－	2	6
4年	100	99	－	－	－	－
計	400	444	20	22	6	11

(令和3年12月1日現在)



看護教育の演習を行う学生

イ. 赤十字看護師養成のための修学支援

当県支部では、看護学部入学者選抜区分の一つである「赤十字特別推薦型選抜試験」の結果を基に面接を行い、支部特別推薦奨学生として大学に1名推薦し、入学後に奨学金を貸与して修学の支援を行っています。

また、現行の福岡県支部奨学金制度を見直し、4年間の貸与期間から、より進路が明確となる3年生、4年生の2年間とし、かつ卒業後に県内の赤十字病院等で一定期間勤務した場合に返済を免除する規定を設け、将来、救護員となる看護師を確保するための支援に努めます。

支部事務局諸行事

随時

支部職員救護体制要綱に基づく本部設置運営訓練	福岡市
------------------------	-----

5月

赤十字運動月間	福岡県
---------	-----

レッドライトアッププロジェクト	福岡県
-----------------	-----

全国赤十字大会	東京都
---------	-----

大韓赤十字社釜山広域市支社交歓研修会（訪問）	大韓民国（釜山市）
------------------------	-----------

支部監査委員による監査	福岡市
-------------	-----

地区本部・地区・分区赤十字担当職員研修会	福岡市
----------------------	-----

福岡県青少年赤十字指導者協議会総会・講演会	福岡市
-----------------------	-----

救護員育成規程共通課程訓練（新規）	（動画配信）
-------------------	--------

6月

第1回評議員会	福岡市
---------	-----

救護医師基礎訓練	久留米市
----------	------

救護看護師基礎訓練	久留米市
-----------	------

救護医師・看護師応用訓練	久留米市
--------------	------

福岡県総合防災訓練	糟屋郡
-----------	-----

7月

献血運動推進全国大会	愛媛県
------------	-----

青少年赤十字国際交流事業（受入）	福岡県
------------------	-----

紺綬会常任委員会議	福岡市
-----------	-----

救護主事基礎訓練	久留米市
----------	------

8月

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター	筑前町
---------------------------	-----

九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会	筑前町
----------------------	-----

福岡県石油コンビナート等図上訓練	福岡市
------------------	-----

9月

福岡市市民総合防災訓練	福岡市
救護主事応用訓練	久留米市
ワールド・ファースト・エイド・デー（世界救急法の日）	福岡県
赤十字水上安全法指導員Ⅰ養成講習	福岡県

10月

全国紺綬・有功会会長協議会総会	大阪府
日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練	久留米市・福岡市

11月

福岡県献血功労表彰式	福岡市
福岡空港航空機事故対処訓練	福岡市
青少年赤十字創設100周年記念第17回青少年赤十字福岡県大会	福岡市
福岡県日赤紺綬会第62回総会	福岡市
九州八県赤十字大会	宮崎県

1月

赤十字健康生活支援講習指導員養成講習	福岡市
九州ブロック赤十字奉仕団委員長及び支部事業担当課長会議	鹿児島県
福岡県国民保護図上訓練	福岡市

2月

第2回評議員会	福岡市
福岡県青少年赤十字研究会	福岡市
地区本部・地区・分区赤十字担当者会議	福岡市

3月

ACTION! 防災・減災	福岡市
奉仕団委員長会議・研修会	福岡市
紺綬会常任委員会	福岡市
救急法・水上安全法普及委員会総会	福岡市
救急法・水上安全法指導員研修会	福岡市
健康生活支援講習・幼児安全法指導員研修会	福岡市

支 部 役 員 名 簿

評議員(69名)

役職	氏 名
支 部 長	服 部 誠 太 郎
副支部長 (2名)	大 曲 昭 恵
	白 石 博 昭
監査委員 (2名)	森 山 敦 文
	平 島 研 二
本社理事 (1名)	荒 牧 智 之
本社代議員 (8名)	荒 牧 智 之
	高 島 宗 一 郎
	北 橋 健 治
	井 上 澄 和
	永 原 譲 二
	木 下 幸 子
	澁 田 繁 晴
	津 村 洋 一 郎

No.	氏 名
1	山 地 正 樹
2	北 原 明 彦
3	澁 田 繁 晴
4	平 野 能 章
5	三 亀 幹 治
6	高 島 宗 一 郎
7	北 橋 健 治
8	今 井 是 生
9	木 下 幸 子
10	庄 野 ま り 子
11	小 松 浩 子
12	阿 部 美 樹
13	谷 口 恭 二
14	馬 場 哲 久
15	藤 田 三 貴
16	野 中 晶
17	細 川 浩 行
18	平 田 誠 一
19	駒 田 浩 良
20	岩 田 光 正
21	島 本 喜 多 江
22	田 中 規 雄
23	中 村 啓 子
24	丹 田 健 二
25	北 原 正 利

No.	氏 名
26	桝 尾 美 栄 子
27	井 上 章 治
28	島 屋 良 一
29	森 川 満
30	武 藤 朋 美
31	太 田 康 子
32	本 脇 尉 勝
33	浜 和 枝
34	松 延 完 治
35	池 田 博 子
36	桑 原 正 彦
37	大 谷 和 彦
38	片 峯 誠
39	井 上 節 子
40	二 場 公 人
41	金 子 健 次
42	三 田 村 統 之
43	西 田 正 治
44	倉 重 良 一
45	田 中 純
46	後 藤 元 秀
47	福 田 浩
48	藤 田 陽 三
49	井 上 澄 和
50	井 本 宗 司

No.	氏 名
51	加 地 良 光
52	伊 豆 美 沙 子
53	楠 田 大 蔵
54	月 形 祐 二
55	田 辺 一 城
56	原 崎 智 仁
57	高 木 典 雄
58	向 井 敏 博
59	林 裕 二
60	赤 間 幸 弘
61	松 嶋 盛 人
62	武 末 茂 喜
63	吉 留 節 子
64	門 司 晋
65	松 崎 利 雄
66	玉 井 弘 樹
67	渡 邊 元 喜
68	道 廣 幸
69	新 川 久 三

支 部 管 内 施 設

支 部

施 設 名	事務局長	所 在 地	電 話 番 号
日本赤十字社福岡県支部	松本 義明	〒815-8503 福岡市南区大楠3-1-1	092-523-1171
久留米赤十字会館		〒839-0801 久留米市宮ノ陣3-4-27	0942-36-5858

病 院

施 設 名	院 長	所 在 地	電 話 番 号
福岡赤十字病院	中房 祐司	〒815-8555 福岡市南区大楠3-1-1	092-521-1211
今津赤十字病院	藤井 弘二	〒819-0165 福岡市西区今津377	092-806-2111
嘉麻赤十字病院	小野 洋	〒821-0012 嘉麻市上山田1237	0948-52-0861

血液センター

施 設 名	所 長	所 在 地	電 話 番 号
福岡県赤十字血液センター	松崎 浩史	〒818-8588 筑紫野市上古賀1-2-1	092-921-1400
福岡県赤十字血液センター 北九州事業所		〒806-0044 北九州市八幡西区相生町15-1	093-631-1211
献血ルーム おっしょい博多		〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街2-1 博多バスターミナル8階	092-476-1400
献血ルーム キャナルシティ		〒812-0018 福岡市博多区住吉1-2-25 キャナルシティ・ビジネスセンタービル1階	092-272-5853
献血ルーム 天神西通り		〒810-0041 福岡市中央区大名1-15-1 天神西通りスクエア地下1階	092-726-1188
献血ルーム 魚町銀天街		〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-3 白樺ビル	093-551-1211
献血ルーム くろさきクローバー		〒806-0036 北九州市八幡西区西曲里町3-1 イオンタウン黒崎1階	093-644-1211

社会福祉施設

施 設 名	園 長	所 在 地	電 話 番 号
特別養護老人ホーム大寿園	高木 光義	〒819-0165 福岡市西区今津520	092-806-6100
特別養護老人ホームやすらぎの郷	野見山 浩志	〒811-2208 粕屋郡志免町大字吉原600	092-936-2022
特別養護老人ホーム豊寿園	荒巻 義徳	〒800-0112 北九州市門司区大字畑1808-5	093-481-1121

看護大学

施 設 名	学 長	所 在 地	電 話 番 号
学校法人日本赤十字学園 日本赤十字九州国際看護大学	小松 浩子	〒811-4157 宗像市アスティ1-1	0940-35-7001

令和4年度 事業計画書

令和4年1月18日発行

発行 日本赤十字社福岡県支部

〒815-8503 福岡市南区大楠3-1-1

TEL 092 (523) 1171 (代表)

FAX 092 (521) 2552

HP <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukuoka/>